

湯川記念館史料室私記

大阪医大・教養 河 辺 六 男
京 大・基研 小 沼 通 二

(1982年7月9日受理)

1. 湯川記念館史料室開設縁起

二十世紀前半は現代物理学の Sturm-und-Drang-Zeit であった。その Hero たち、老いた “Werther” や “Karl Mohr” の証言を記録にとどめようという気運は、60年代後半から目立ち始めたように思われる。67年5月18～19日、翌々年の同月同日と2回にわたって Brookline でもたれた free な座談会形式の核物理学の誕生と成長を語る集り¹⁾、77年5月 Minnesota における30年代核物理学回顧の symposium²⁾、79年9月の Argonne の ZGS を shutdown した際の symposium³⁾ 等々。われわれも日本物理学会創立百年を迎え(1977)、この国における物理学の定着と発展をふりかえる機会をもった⁴⁾。湯川記念館史料室 (Yukawa Hall Archival Library, YHAL) の開設もこの潮流の中にあつた。

史料室をつくる話が公式の場で始めて上つたのは、日米科学協力研究 (USJC Project): “Particle Physics in Japan, 1930 - 50” (78年8月 - 79年7月)⁵⁾ の第1回日米合同研究会の3日目(78年9月14日)、Future Program の session においてである(表1)。このときUS側出席者、Northwestern 大学の L. M. Brown 教授から、中間子論の提唱発展に関する日本側資料の収集保存が、それらの英訳も併せて、強く要望された。席上日本側の対応は積極的なものではなかった。(研究上の問題に関する)往復書簡の保存についての東西の習慣のちがいの指摘、財源の問題の悲観的観測、等々、まったく bureaucratic に「努力する」で終った。しかし合同研究会後、基研周辺のこの project の関係者たちは次のような考えに次第に傾いていった: これまでの中間子論の歴史は創設者たちの解説・回想記が専らであった。それらは英雄譚にも似た生々の感動を与える一方、その性格上日時の齟齬や資料の裏付を欠くなど、scientific archives としての完璧を望めない。物理学の現代史の史料が、AIP の Center for History of Physics に、Berkeley の50万通にのぼる研究者間の往復書簡の Collection に、Copenhagen の Niels Bohr Archive に、CERN の Pauli Letter Collection に、収集保存されているとき、現代物理学へのこの国の独創的な寄与に関する史料も、散逸前に収集され伝承されるべきであり、この project はその実現に一步を進める好機ではないか、と。

翌79年2月、日本側だけの研究会で史料室の素案(付録資料1)が論ぜられ、5月の第2回日米合同研究会、第74、75回の両基研研究部員会議の諒承を得て、USJC project の終った79年8月1日より、

表 1. 湯川記念館史料室 (YHAL) 縁起

1978. 9. 14	Research Meeting of USJC Project: PARTICLE PHYSICS IN JAPAN, 1930-1950 (at RIFP; 9. 12-9. 14; US side: Prof. L. M. BROWN, Northwestern) The 1st proposition of ARCHIVAL LIBRARY.
1979. 2. 14	USJC Research Meeting (at RIFP; 2. 14-2. 15; only Japanese Side) 湯川記念館史料室案検討: 湯川記念館史料室 (仮称) 設立要綱 (案) →“Tentative Plan for the Establishment of Archival Library, Yukawa Hall, Kyoto University”
3. 2	第 74 回基研研究部員会議: 議題 13 湯川記念館史料室開設案 (第 74 回基研研究部員会議々事録, 議題 13, p. 22; [資料 1, p. 232])
5. 16	USJC Research Meeting (at RIFP; 5. 14-5. 16; US Side: BROWN, 南部) ←
6. 29	第 75 回基研研究部員会議: 議題 13-2 (第 75 回研究部員会議々事録 p. 12)
7. 31	USJC Project 終了
8. 1	史料室発足
9. 14	第 1 回史料室準備委員会 —— 牧二郎・小沼通二 (京大基研) 史料室組織・委員人選・財源 田中正・町田茂 (京大理) 史料捜査 (“在庫調べ”) 井上健・徳岡善助 (京大教養) 河辺六男 (大阪医大教養)
9. 25	第 2 回史料室準備委員会 委員追加: 川合葉子 (京大教養)
10. 26	湯川史料発見!! 中間子論第 I, II, III, IV 論文原稿計算類確認!
10. 27	第 3 回史料室準備委員会
11. 5	湯川 → 史料寄贈承諾
11. 24	第 1 回史料室会議 史料の整理・保管・閲覧方式の検討
12. 12	第 2 回史料室会議 史料閲覧に関する規定, 等
1980. 1. 26	第 3 回史料室会議 “湯川記念館史料室内規案”, “同 利用規定案” 検討 史料整理様式: File Code, Card Format, etc. 決定
2. 29	第 76 回基研研究部員会議: 議題 17-2: 湯川記念館史料室内規案
3. 3	史料室内規基研協議員会決定 (4. 1 より施行) [資料 2, p. 233] 委員追加: 佐藤文隆 (京大基研)

湯川記念館史料室を発足させる運びとなった。夏休みあけに史料室の組織・運営・財源を検討するため、基研周辺の関心のある人たちが第一回史料室準備委員会がもたれた。準備委員の人選は、財源皆無の下で、ともかく集り、実際に動いてもらえるような人たちに限られたことをお断りしておきたい（観点を変えれば、voluntaryな活動を強要されたとぼやかされるかもしれない）。

第1回準備委員会の空気は御義理にも活潑と言えたものではなかった。さきに湯川先生に中間子論関係の計算・草稿の類の行方をうかがった折には、にべもなく「ない」と首をふられたし、今までに公表された日本側中間子論資料は、あらかじめUSJC projectの期間中に文献カードが作製済みであり、実質的な作業として考えられるのは、史料室の運営管理に格好をつける以外、Brown教授の要望に沿って縦のものを横にする憂鬱な仕事くらいしかないのではないかと、委員一同等しく思っていたからである。しかし湯川先生が研究資料を阪大から京大にもってこられたにはちがいないから、保存すべき資料の「在庫調べ」ともかく試みてみよう。基研の中は当面散逸のおそれはないが、湯川先生が以前所属しておられた京大理学部物理学教室は重要捜査個所だろう、ということでお開きになった。

教室の古老たちをあたり始めた田中正氏が、図書室の慈道佐代子さんから耳寄りな話を聞きこんだ。かつて物理学教室図書室が移転したとき、各研究室からも段ボール箱が多数新図書室に運びこまれたが、未整理のまま書庫の片隅に埃をかぶっている数箱が、たしか旧湯川研からのものだったようだ、というのである。田中氏は、古い書物の間に湯川先生の私物らしい資料があることを認め、早速筆者の一人(M.K.)に電話してきた。直ぐに図書室に行き箱をあけてみると、京都大学の蔵書印のある古い書籍の下に、中間子論第I論文から第IV論文の計算・原稿を始めとして、学会講演や研究室コロキウム報告の原稿等がぎっしり詰めこまれているではないか！

この朗報は翌日の第3回準備委員会に報告され、一同の氣勢大いにあがったことはいうまでもない、次の会合をお手盛で「第1回史料室会議」としてしまったものである。これらの原稿類は、以前に物理学教室で偶然発見され、湯川先生の下にとどけられていた「研究室日誌」(1938-1948)も含めて、⁶⁾史料室に寄贈して下さることになり、この後の「史料室会議」では、整理方法の手さぐりが続けられるのだが、それは第3節で語ることにしよう。組織面では、基研内規としての「湯川記念館史料室内規」の草案が討議され、第76回基研研究部員会議に提出された後、80年3月基研協議員会決定を見た(付録資料2)。ここに80年4月1日から基研内規に基く「湯川記念館史料室」となり、また「史料室内規」に従う、基研所長を委員長とする「史料室委員会」が、3回の準備委員会と5回の史料室会議の転生として、史料室の管理運営に当ることになった。

史料室所蔵の資料閲覧のための「利用規則」および「利用申込」の邦文・英文両様のformatが、第4回史料室委員会で決定された(付録資料3 p.234 および次項目, p.240)。それらは、湯川先生御寄贈の際の「あまり宣伝しないでほしい」という御意向と、公表論文ではなくすべて原稿段階のprivateなものであることを、考慮に入れた結果であることに十分留意いただきたい。

scientific archivesの収集保存は、この国の物理学百年にして、communicationのglobalな拡大と迅速化を背景に、われわれが直面することになった問題といえるだろう。その利用も十分な節度をもって行われねばなるまい。場合によっては、本人の遺志や関係者への顧慮などから、われわれは次の世代に引

継ぐだけに終らねばならぬことも起ってこよう。だが禁欲的でなければならぬ。そうでなければ、自然科学史料保存という伝統の育成定着に協力を得ることはできない。故坂田昌一先生の「Physicist 三悪」に倣えば、「Historian 三悪」は

- (1) まごびき — Requoting
- (2) ふくらまし — Paraphrasing
- (3) でばがめ — Peeping

とでもなろうか。低俗な興味本位の内幕曝露を歴史的事実と強弁するのは、Historian 失格でしかない。

2. 欧米 Archives 回覧実記

これより前の1979年の夏の初め、USJC Project “Particle Physics in Japan, 1930-1950” が最終段階に近づいていたとき、筆者の一人(M.K.)は、欧米の諸研究所を歴訪する機会を得た。このときに、限られた時間であったが各地の Archives を見せてもらった。ヨーロッパでは、夏は研究所を訪ねるべき時期ではない。すでに休暇をとって留守の人たちもいた。それでも、生み出そうとしている物理学史の資料センターのイメージの構想に有益な知見を広めることができた。

訪ねた Archives は、

Salle Pauli, CERN,

Niels Bohr Archive, Niels Bohr Institute, Copenhagen,

Center for History of Physics, American Institute of Physics, New York

“History of Accelerator” Room, Library, Fermi National Accelerator Laboratory,

Office for History of Science and Technology, Univ. of California, Berkeley.

である。

CERN の図書室の近くにある Salle Pauli は、CERN 所長から事前に書面による許可を得て入室が許される。まず大版の古風なノートに記帳を求められたが、日本からの訪問者の名前もすでにいくつか記されていた。手前の部屋の耐火ロッカーの中には、手紙、講義ノート、写真、原稿などが納められ、奥の部屋の書架には Pauli の所有していた書物がならべられている。物理の本に限らず、心理学の本などもみられた。ここの目玉である “Pauli Letter Collection” には、Pauli が受取ったもののほか Pauli 夫人と N. Bohr, R. Kronig, V. F. Weisskopf が連名で全世界によびかけて集めた、亡き Pauli の手書きの手紙が多数含まれている。訪問時には3巻の書簡集刊行が準備されているときだったが、これまでに第1巻が刊行されている。⁷⁾

CERN 訪問は、Geneve におけるヨーロッパ物理学会高エネルギー物理国際会議の機会であったが、その後 DESY に立寄ってから Copenhagen に回った。

Niels Bohr Institute の A Building 最上階には Niels Bohr Archive がある。ここの資料のリストは、Thomas S. Kuhn たちがまとめた *Sources for History of Quantum Physics*⁸⁾ に含まれている。さらに Bohr の未完成原稿まで含めて全著作を刊行しようとの計画が進められており、すでに4巻まで刊行された。⁹⁾ Niels Bohr Institute を訪問中に、日本から全く予想外の Telex を受取った。「朝永先

生没……」。そこですぐに日本への弔電の準備などをしていて、翌日 New York に飛ぶ予定との関係で、N. Bohr Archive の Dr. Erik Rüdinger と会いそこなってしまったのは残念であった。

New York での訪問先の一つは、American Institute of Physics の Center for History of Physics であった。国連近くの AIP の中の Center では所長の Dr. Spencer R. Weart や副所長の Dr. Joan N. Warnow が案内してくれた。くわしい説明を聞いた上、われわれが作ろうとしている湯川記念館史料室について示唆と激励まで受けた。

この Center の中心は 1962 年 9 月に設立された Niels Bohr Library である。ここには、寄贈と購入によって約 1 万点の資料が納められている。その内容は、出版物だけでなく、物理学者の手紙・ノート・原稿など、そのほかに物理学者へのインタビューの録音テープとそれをおこした記録、写真、世界中に保存されている物理学史資料の目録などに及んでいた。この中には、さきに述べた *Sources for History of Quantum Physics*⁸⁾ のマイクロフィッシュも含まれている。

写真の収集の例として、この年 1979 年に生誕 100 年を迎えた Einstein の場合をみてみよう。AIP の Center は、600 枚を超える Einstein 関係の写真とその説明、所在と所有権の情報まで含めた冊子を発行した。¹⁰⁾ Center には、記念行事の計画者たちから、写真の提供依頼が続いている。AIP の方法は pictorial material の整理のひとつの範型となるものであろう。

さらに Center は、Princeton の Institute for Advanced Study の sponsor の下で、18 枚からなる Einstein 100 年記念展示用パネル¹¹⁾を作製し販売と貸出しをおこなっていた。当時すでに全世界の 100 か所ほどの大学、科学博物館などが購入し、60 部の貸出し用パネルが全米各地で展示されているとのことであった。

このセンターでは、所長・副所長のほかに 5 人のスタッフが働いており、その中の 2 人は Librarian, 1 人は Administrative Assistant である。(あとの 2 人についてもきいたのだが、メモが不完全でわからない)

これらの活動の財源は、AIP から年間 \$120,000、各種財団の援助、The Friends of the Center for History of Physics を通した個人からの寄付約 \$15,000 /年によってまかなわれており、そのほかに平均して年間 2～3 件の補助金が出ているとのことであった。

Weart と Warnow は、利用手続を説明してくれ、科学資料保存の重要性と方法を説明したパンフレットをくれた。¹²⁾ これは、われわれが史料室の活動方針を決めていく上で大いに役立った。

さらに、活動の規模も、人数も財源も、発足時は小さく手弁当であったが、実績をつみ上げるとともに拡大してきたことを語り、人手も予算も見通しのないわれわれを激励してくれた。

なお、ここからは不定期刊の“Newsletter”を年 2 回のペースで発刊しており、センターの活動のほか物理学史研究の情報誌の役割も果している。希望者は無料で入手することが可能である。

このあと、日米科学協力研究のため、Chicago にしばらく滞在していた間に、Fermilab の図書室の一隅にある“History of Accelerator” room も見る機会があった。ここでは、Dr. Lillian Hoddeson が中心になり、収集分析をおこなっていたが、加速器に関することはすべて、新聞のきりぬきまで完全に集めようという方針でやっていた。

次の訪問地 Berkeley では, J. L. Heilbron を中心にした Office for History of Science and Technology を訪ねた。丁度八木江里, 辻哲夫の両氏も滞在中であり, たいへんお世話になった。Berkeley では, このほか, Bancroft Library にも, 物理学史資料が大量に集められている。

Heilbron 氏は, 史料センターの supervisor は professional であるべきだし, 管理維持には Librarian が当るのが望ましいと語った。さらに coverage は, できるだけ広くとるべきこと, カタログには可能な限り簡単なコメントをつけておくのがよいこと, などを経験を含めながら忠告してくれた。

ここでの最大の collection は 6000 人の物理学者の 50 万通におよぶ手紙の情報であり, カード式のリストのほか, B. Wheaton がデータベースを作りつつあった。これだけの手紙を集めるために, staff を各地に派遣してきたが, 京都・東京にもやってきた Florence Chang 女史に再会した。彼女は part time assistant として働いていた。

ここでは, 冊子体の Berkeley Papers in History of Science も刊行している。最初の数冊は, 代表的物理学者の non-technical writings のデータに関するものであり, M. Planck, W. H. and W. L. Bragg のものが既に刊行され, E. Rutherford¹⁾の分が編集中であった。¹³⁾

これらの訪問を通じ, 各地の Archives の歴史と現状そして将来への抱負をきくことができ, 各センターの利用手続きも知ることができたのは, われわれが湯川記念館史料室の構想をまとめていく上に有形無形の影響を与えること大であった。^{*}

3. ARCHIVIST 手習い

さてわれらの「段ボール宝箱」中の湯川文書には, 大別して, 論文題名が墨書された大型封筒(一度用を勤めた)で仕分けされたものと, 執筆年度と内容に従って分類し綴込まれた files とがあった。使われている紙の質は様々で, 横野 A 4 判程度の大阪帝国大学用箋から通常原稿用紙, 複写用の薄いタイプ用紙等々, はては大阪帝国大学試験用紙まであった。とりわけ計算の大部分は藁判紙が使われ, 一寸乱暴に扱ったら, こなごなに碎けてしまうほどに焼けている部分もあった(思えばもはや半世紀近い昔に書かれたものである)。しかもそれが物理学史の超一級の資料ときている。そんな代物を一体どのような形で保存し, どのような scheme で整理し, またどんな具合に閲覧利用できる状態にもちこむか? 79 年後半から 80 年初頭にかけての討議の時間の大半がこの問題に費されたといつてよい。

こういった archives の取扱いの基本の手ほどきを簡単に授けてくれそうな行き先も一寸見あたらない。加えて予算ゼロというやるせない constraint もある。どだい archivist なるものがこの国の科学史学界で完全な市民権を得ているとは思われない現状では, 自らが開祖となって, 「新陰流」ならぬ「新我流」を編み出すよりない。唯一のたのみは, 79 年夏 AIP の物理学史センターからもらってきた一小冊子¹²⁾であった。

資料保存の上で史料室委員会が置いた原則は次のふたつである。

* Paris の International Symposium on History of Particle Physics(82 年 7 月)で得た情報では, Rome 大学物理学教室にも史料センターが開設され, E. Amaldi を中心に, 量子力学の発展に対するイタリア関係資料の収集整理が始められた。(校正時追記)

〔保存則Ⅰ〕 原資料はビニール袋に入れ、紫外線と湿気とを遮断して保存する。

この処置は、80年5月の Fermi Lab の会に出席された早川幸男教授を通じて得た、AIP 物理学史センター副所長 J. N. Warnow の suggestion と一致するものであった。(この原則の具体化には市販の B4判クリア・ファイルを使うことになった。話が細くなるが、収納の際資料のゼム・クリップやホッチキス針は取除いておいた方がよい。鉄錆は湿気を招き資料を汚染する元兇である)。保存則Ⅰより

〔保存則Ⅱ〕 資料閲覧には原則として XEROX copies を当て、またその他に複数の copies を作って、別々の場所に保存する。

これは原資料への access の完全禁止を意味するものではない。一律に無表情に規格化された XEROX copies ではなく originals から受ける深く多彩な impression は、史家の想念をはばたかせる源泉のひとつだからである。保存則Ⅱの後半は、たとえ天変地異が起ろうと、何とか1 copy だけでも生き残らせようとの皮算用である。ただしそれら copies は保存用だけのもので(保管場所は史料室委員所属の研究機関から選ばれた)、閲覧用には、史料室の窓口を通じ、史料室のそれだけが供せられる。

資料の整理にあたっては、(AIPの booklet に従って)まず何よりも

〔整理則Ⅰ〕 原著者が置いた資料の順序を絶対に乱さず、かつ記録する

ことに徹した。その根拠は、原配列には原著者の何等かの意図が反映されているはずだ、というところにある。勿論、原著者の非作為的な手ちがいとか、整理を考えながらそのままにされてきた場合とかが、混在している可能性は十分考えられる。しかし手ちがいや放置が明らかと思われるときでも、それは原順序に対する整理者の注の形で付記し、資料群の配列の解釈は研究者一人一人に新しい challenge として残されるというのである。われわれの脳裏には、たとえば Keynes' Collection 中の Newton 草稿の Herivel による年代決定¹⁴⁾AIP 物理学史センター所長 Weart から聞いた、原配列を混乱させたため資料位置を失った具体例があった(一方、湯川文書の最初の整理という責任と労力とを僅かなりとも軽減したいとのひそかな願望が、amateur archivists どもの胸中に巣くっていたことは弁解しない)。

同じ精神から

〔整理則Ⅱ〕 原資料に記されていた主題名 (subject) と、整理の便宜上整理者が付けたそれらとは、明確に区別する

ことにした。各資料ユニットの内容を簡潔に示す主題名は、検索上からも望ましいものであるが、原著者によるそれが、とくに計算の類では付けられていないことが多い。このような場合に付けた主題名をはじめ、英訳文その他整理者の手になる注釈は一切、角括弧に挟んで示すことにした。それらはすべて便宜上のものである。資料利用者は角括弧内はすべて白紙として検討していただきたい。そこに思いもかけぬ関連が見出され、原著者の真の心象が浮び上がることがあるかもしれない。

Classification scheme における資料の code number には、ローマ字数字混合の9個の文字を使うことにした(YHAL-Resources, HY-I Classification scheme 参照)。最初の3文字(1ローマ字2数字)のblockで資料の出所を表し、真中の3数字でつくるblockでは原著者による配列の順を示し、最後の1ローマ字2数字から成るblockによって資料の種別を語らせようとの心算である。更にその後に付加して資料の内容を示す省略記号(ローマ字2文字)を準備した(Cf. YHAL Resources, Abbreviations

and Notations)。

例: E01 100 P01 MP

封筒1番に入れてあり(E01), 上から“10番目”にあった(100), 中間子論第一論文(P01)に関する論文原稿(MP)。

[湯川史料中, 物理学に関する論文(P**)の番号は, “Hideki Yukawa, Scientific Papers”, Part I (岩波, 1979)のそれに合せた。]

例: F01 030 T02 MT

File No.1 (F01)の“3番目”に綴じ込まれていた(030), 講演第2番(T02)の, 講演原稿(MT)。

この code number の選定が, われわれがまず扱うことになった湯川文書の内容に, 少なくとも部分的には, 依存していることは否定しない。史料室が湯川史料以外の他の物理学者のそれも扱うようになったら, 最小限ローマ字2字を上9文字の前につけて識別することが必要になる。この処方で形式的には $26^2 = 676$ 人に関する史料が仕分けできることになる。

また別の category に属する code number も準備しておかねばならない。ひとつの具体例は湯川日記である。この「研究室日誌」はB5判くらいの横野ノート15冊(第二次世界大戦中の粗悪な紙質のものも混じる)から成り, 1938年4月21日から1948年9月15日までの期間を cover する(N01 010 D01~N15 010 D15)。「研究室」とは題してあるが, これらのノートは学会その他出張の際にも常に先生と行を共にした模様で, 簡潔ながら委細を尽した記事は, 先生の細心綿密な一面をうかがわせてくれるが, private な性質の事柄から和歌の下書きまで散見され, 私的な日記の役割も兼ねている。そこで湯川先生の御諒解の下に, 日誌記事中中間子論の発展に直接関連があると史料室委員会が判断した部分だけを, copy 編集して閲覧用資料の形にまとめることにした。他の資料からも特定の主題について史料室が抜粋編集し, 閲覧の便宜をはかることは当然予期される。こういった史料室編の資料類は code number

EDT ***

を与えることにした。後半の3個の数字は編集番号である。この code number は, その与え方から推測される通り, まったく conventional なもので, 将来多数の EDT 資料ができたときには, 更に細い分類を行うことがあり得るのを予想している。

同様な性格の code number には,

PCT ***

すなわち絵画資料 (pictorial materials) に対するそれがある。81年10月の追悼講演会における展示パネル18枚はこの item の第一号である(PCT 010)。史料室は湯川家その他の御協力によって湯川先生に関係する写真約300枚を, 戦前・戦中・戦後に大別し, 撮影日時の同定までほぼ完了している。この項目には, 実験家の場合なら概略図 (sketches) や工作図 (shop drawings) なども含められるだろうし,

今後一番考慮されねばならぬ source は videotapes であろう。

また講演・講義・interview の録音 tapes は

ADT * * *

の下に整理される。

PCT及びADT資料は、その code number で特定の個人または集会を同定し、その中での資料の細分は、採録された年月日をそのまま使うことにすれば多くの情報を一時に与えるのではないかと思えるが、まだ最終的な方式の決定を見ていない。

code number の選定はどうしても取扱う資料に依存するよう思える。むしろ資料に応じて最小の記号で最大の情報量を与えるような方式がそれぞれ開発されるべきでないかと思う。そして資料の整理を進めてゆくうちに、最初十分に網を張っておいたつもりでも、十中八九手なおしの必要にせまられるにちがいない。このとき根本的な改訂を行うなら、それまでの作業を今一度繰返すと同等の労力を強いられる。してみると classification scheme はできるだけ僅かな変更で不測の事態に対応できる flexibility を具えていることが肝要になる（番号づけも、後から挿入ができる、computer の programing での行番号の方式を採っておいた方がよい）。これは amateur archivists の貧しい体験からする、行を改めて書くには気恥ずかしい経験則である。

さて史料室は発足以来、まず中間子論関係の資料に集中するという strategy を採った。「段ボール宝箱」の内容は、code number の第3 block に用意した文字に見られる通り多岐にわたっていたが、第一次目標を、中間子論第I論文から第IV論文までの計算と草稿およびそれらに直接関係する資料の整理、に置いた。それが完全に達成されたとはまだまだ言い難いが、82年5月までに何とか恰好のついた分の目録を、「YHAL RESOURCES, HIDEKI YUKAWA I.」として、本号に併録することにした。

4. YHAL覚え書

1980年3月には、われわれは日本物理学会年会（早大）において「中間子論の誕生 — 湯川記念館史料室の発足に当って」と題し、物理学史分科の特別講演をおこなった。¹⁵⁾ これは湯川史料についてはじめての公表であった。国外には、早川幸男氏が Fermilab でおこなわれた素粒子物理学史国際シンポジウムで招待講演をおこなった中で、湯川史料を始めて公開した。¹⁶⁾ このシンポジウムにあわせて、Fermilab では“Memorabilia of Five Decades of Particle Physics”と題する展示会を、1980年5月から7月まで開いたが、ここに中間子論第一論文手書き原稿が出品され注目を集めた。史料室の最近までの活動は、1982年3月の日本物理学会分科会物理学史シンポジウムでも報告をおこなった。¹⁷⁾

時間は前後するが、1981年9月には湯川先生急逝という事態を迎えた。史料室は、湯川史料の散逸を防ぐため、基礎物理学研究所の先生のお部屋と御自宅の資料の保存について、湯川スミ夫人に御理解と御協力をお願いし、御快諾を得た。

基研では、10月末に追悼の講演会と展示会をおこなうことを計画したので、史料室は、多数の周辺の研究者の協力を得て、18枚のパネル「湯川秀樹 1907 - 1981」を作製した。¹⁸⁾ この際、Einstein の生誕

100年に American Institute of Physics が作製し、日本でも展示されたパネルが大いに参考になった。¹²⁾ 作製したパネルは、1982年3月に基研で開かれた湯川博士追悼シンポジウムの際にも展示されたほか、各地に貸出された。

パネル作製の機会に、写真の積極的収集もおこなった。物理学史に関する写真は、すでに述べたとおり AIP の Center for History of Physics, CERN の Salle Pauli などに多数集められている。湯川記念館史料室にも、貸出し、コピーの申込みが多く、現在、約300枚の写真を所有している。

さらに昨年秋以来おこなってきた史料室の活動に、湯川秀樹著作目録の作成があげられる。書籍になっているものをとりあえず調査した結果、219冊を数えたので、これも本号に掲載することにした。 国

湯川記念館史料室は、湯川史料を中心に据えて、関係する現代物理学史の資料にも手をひろげつつある。今後東京にある、仁科・朝永資料、名古屋にある坂田資料そして諸外国の現代物理学史資料の諸センターと協力して、活動をつづけていくことになるであろう。

とくに、1978年から1年間おこなった日米科学協力研究にひきつづく共同研究を1983年からおこないたいとの希望もあり、1985年8月には、中間子論50年記念素粒子物理学史国際シンポジウムの開催も計画されはじめている。

関心をもたれる方々の御協力をぜひお願いしたい。

付録 I

資料 1

TENTATIVE PLAN FOR THE ESTABLISHMENT OF ARCHIVAL LIBRARY, YUKAWA HALL, KYOTO UNIVERSITY

- [1] NAME: ARCHIVAL LIBRARY YUKAWA HALL KYOTO UNIVERISTY
(tentative).
- [2] PURPOSE: To insure that the historical documents and sources of Japanese research works and activities in Meson Theory and others are widely collected and preserved.
To conduct, encourage and help make possible scholarly studies that will contribute to understanding of the development of 20th-century physics.
- [3] PROGRAMS: The project of the Library is as follows:
1) Program to locate and arrange for preservation of historical source materials in Japanese scientific works and activities in general.

- 2) Publication and exhibits of the catalog of arranged historical documents and the result of study on historical science.
- 3) Communication of historical information to the public by providing resources, services of recopy and other helps.
- 4) International communication.
- 5) Service for study of history of physics.
- 6) Other activities (public lectures, symposium)

[4] ORGANIZATION

- 1) Committee (~10 members, including chairman)
- 2) Researchers appointed by the committee
- 3) Advisory Committee (member appointed by the chairman)
- 4) Secretarial staffs (1-2 members)

[5] SOME BRANCHES outside Research Institute for Fundamental Physics, Kyoto, Japan

[6] FINANCIAL FUNDS (uncertain at present)

[7] (Expected) COOPERATION

With Department of Physics, Kyoto University; Yukawa Memorial Room of Osaka University, Sakata Archival Room of Nagoya University, Nishina Foundation, Library of Phys. Soc. Japan, and others.

資料 2

京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室内規

(昭和55年3月3日協議会制定)

第1条 京都大学基礎物理学研究所に、湯川記念館史料室(以下「史料室」という。)を置く。

第2条 史料室は、中間子論その他の基礎物理学の研究活動及びその成果に関する歴史的史料、図書、文献等を収集、整理保存し、学内外の研究者の利用に供する。

第3条 史料室に、その運営に関する事項を審議するため、史料室委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 基礎物理学研究所長(以下「所長」という。)
- 二 基礎物理学研究所の教官のうちから所長の命じた者 若干名
- 三 前2号以外の京都大学の教官のうちから所長の委嘱した者 若干名

四 学外の学識経験者のうちから所長の委嘱した者 若干名

2 前項第2号から第4号までの委員の任期は、1年とし再任を妨げない。

第5条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号及び第2号の委員のうちから委員会において選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ、委員長の指名する委員がその職務を代行する。

第6条 前3条に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

第7条 この内規に定めるもののほか、史料室の利用その他必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、昭和55年4月1日から施行する。

資料3

京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室利用規則

第1条 この規則は、京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室内規（昭和55年3月3日制定）第7条の規定に基づき、基礎物理学研究所湯川記念館史料室（以下「史料室」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

第2条 史料室において保管する資料を利用することのできる者は、次のとおりとする。

- 一 基礎物理学研究所（以下「研究所」という。）の職員
- 二 研究所の図書閲覧票の交付を受けている者
- 三 その他特に史料室委員会（以下「委員会」という。）が適当と認めたる者

第3条 史料室は、次の各号に掲げる閉室日を除き、毎日9時から、16時30分まで（土曜日にあつては、12時まで）開室する。

- 一 日曜日
- 二 国民の祝日（国民の祝日が日曜日に当たるときは、その翌日）
- 三 本学創立記念日（6月18日）
- 四 年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）

2 史料室の運営上必要があるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に史料室の閉室又は開室時間の変更をすることがある。

第4条 資料の利用は、閲覧を原則とし、貸出しは行わない。特に複写を希望する場合には、別紙様式による申請を提出するものとする。

第5条 委員会が特別に指定する資料については、これを利用しようとする者は、予め別紙様式による特別閲覧許可願を委員長に提出し、委員会の許可を受けなければならない。

第6条 この規則に定めるもののほか、史料室の利用に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規則は、昭和55年6月28日から施行する。

湯川記念館史料室資料特別閲覧許可願

1. 申請者氏名

所属機関名・職名

所在地及び電話番号

自宅住所及び電話番号

2. 利用資料名、カード番号

3. 利用目的〔なるべく具体的に記入して下さい〕

4. 利用期間〔二週間を超えることはできません〕

年 月 日より 年 月 日まで

申請者は資料の利用に際し、史料室利用規則ならびに史料室委員会の指示に従うほか下記の条項を守ります。

1) 資料は学術上の目的以外には利用しない。

2) 史料室委員会の書面による許諾なしには、資料のいかなる部分をも他に引用しない。

3) 学術的見地から正確を期する必要がある場合を除き、資料の内容をいかなる形でも原典以上に敷衍しない。

4) 資料の複写物（手書きによる複写を含む）は、史料室委員会の許諾なしにはこれを第三者に入手せしめない。

5) 資料の利用によって書かれた申請者（共著者のある場合を含む）の論文あるいは著作が出版された場合には、それぞれ二部ずつを史料室に寄贈する。

6) 申請者は資料の保全に責任を負う。

以上の通り誓約しますので、資料の特別閲覧を許可下さるようお願いします。

年 月 日

申請者（自署）

㊟

湯川記念館史料室委員会委員長 殿

付録Ⅱ

湯川記念館史料室史料について書かれた論文リスト

「中間子論誕生の歴史的資料の発見」

小沼通二 自然 1980年10月号

「日本における中間子論の発展」

早川幸男 自然 1980年10月号

“Development of Meson Physics in Japan”

早川幸男 “*The Birth of Elementary Particle Physics: 1930-1950.*” Ed. by L. M.

Brown and L. Hoddeson (Cambridge Univ. Press, to be published)

「湯川史料からみた中間子論の周辺」

小沼通二 自然 1981年11月増刊号

「朝永 vs. 湯川」

亀淵迪 朝永振一郎著作集月報(2). p. 3 (みすず書房, 1982)

「中間子論と宇宙線」

早川幸男 科学 1982年2月号

「中間子論の誕生」

河辺六男・小沼通二 日本物理学会誌 1982年4月号

引用文献

- 1) Ed. C. Weiner, assisted by E. Hart, *Exploring the History of Nuclear Physics*, AIP Conference Proceedings No. 7 (AIP, 1972)
- 2) Ed. R. H. Stuewer, *Nuclear Physics in Retrospect* (Univ. of Minnesota Press, 1979)
- 3) Ed. J. S. Day, A. D. Krish & L. G. Ratner, *History of the ZGS*, AIP Conference Proceedings, No. 60 (AIP, 1980)
- 4) 日本物理学会編「日本の物理学史」(上)(下)(東海大学出版会, 1978)。また日本の科学技術全般にわたっては、日本科学史学会の輝かしい業績「日本科学技術史大系」全25巻(第一法規, 1964~1970)がある。
- 5) Ed. L. M. Brown, M. Konuma & Z. Maki; *Particle Physics in Japan, 1930-1950*, Vol. I & II (RIFP preprints, RIFP-407 & -408, Sept. 1980)
- 6) 佐藤文隆「自然」増刊追悼特集, p. 65 (中央公論社, 1981)
- 7) W. Pauli, *Wissenschaftliche Briefwechsel mit Bohr, Einstein, Heisenberg u. a.* Band I, 1919-1929, Ed. by A. Hermann, K. v. Meyenn, V. F. Weisskopf (Springer-Verlag, 1979)。〔本書のあと書きと利用者への注意(pp. 532)にSalle Pauli設立の経過も述べられている〕
- 8) T. S. Kuhn, J. L. Heilbron, P. Forman, Lini Allen, *Sources for History of Quantum Physics*, (The American Philosophical Society, 1967)

- 9) Niels Bohr, *Collected Works*. Ed. by L. Rosenfeld, Vol. 1 Early Work (1905-1911) Ed. by J. R. Nielsen (North-Holland Pub. Co., 1972) ほか。
- 10) *Images of Einstein: A Catalog* (Center for History of Physics, AIP, 1979) AIP Publication R-287
- 11) *A. Einstein, 1879-1979 A Centennial Exhibit*. (AIP, 1979)*
- 12) *Scientific Source Materials: A Note on their Preservation* (American Institute of Physics, Center for History of Physics, 1977).
- 13) *Max Planck, A Bibliography of his non-technical writings, Berkeley Papers in History of Science I* (Office for History of Science and Technology, Univ. of California, Berkeley, 1977). W. H. Bragg and W. L. Bragg, *ibid. II* (1978)
- 14) J. Herivel, *The Background to Newton's Principia*, Part I, Chap. 6 (Oxford University Press, 1965).
- 15) 河辺六男, 小沼通二, 「中間子論の誕生 — 湯川記念館史料室の発足に当って」。日本物理学会年会物理学史分科特別講演, 1980年3月29日。
- 16) S. Hayakawa, Development of Meson physics in Japan, in "*The Birth of Elementary Particle Physics: 1930-1950, Proceedings of the International Symposium, Fermi National Accelerator Laboratory, May 1980.*" (Cambridge Univ. Press, to be published)
- 17) 小沼通二, 「湯川記念館史料室」。日本物理学会物理学史分科シンポジウム講演, 横浜国立大, 1982年3月30日
- 18) パネル「湯川秀樹1907-1981」。「湯川秀樹博士を偲ぶ — 追悼行事の記録 —」京大基研・理学部「湯川秀樹博士追悼行事実行委員会」編(理論物理学刊行会, 1982) pp. 34。

*日本国内では京都市青少年科学センターが購入して、展示会を開催した。

YHAL Resources

The YHAL Resources give informations on the documents in YHAL which are compiled according to YHAL classification scheme. They are available by request for research purpose.

YHAL Resources: Hideki Yukawa (I)	素粒子論研究 65/4, 239-269(82-07-) [Soryushiron Kenkyu (Kyoto) 65/4(1982), 239-269.] E01~E06; F01~F04; EDT 010~030; PCT 010.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (II)	素粒子論研究 70/5, 289-306(85-02-) E08,E15; F05; EDT 040.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (III)	素粒子論研究 77/4, 161-202(88-07-) E10~E14,E16,E17; F08,F15,F16,F50,F51; EDT 050,EDT 060; PCT 020.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (IV)	素粒子論研究 90/1, 11-35(94-10-) F50改訂,F51改訂; N151; Z01,Z02.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (V)	素粒子論研究 90/2, 65-93(94-11-) E07,E18~E30; EDT 070.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (VI)	素粒子論研究 91/5, 181-189(95-08-) E31; EDT 080.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (VII)	素粒子論研究 94/5, 117-203(97-02-) Z03~Z08.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (VII統)	素粒子論研究 95/6, 82-95(97-09-) P**; U01~U06.
YHAL Resources: Hideki Yukawa (VIII)	素粒子論研究 98/3, 200-206(98-12-) Z10 ; N221~N226.
「湯川秀樹全著作」(ver.2)	素粒子論研究 70/5, 307-320(85-02-) ['All the Writings of Hideki Yukawa' {ver.2}]